

中江藤樹・心のセミナーから

『近江商人の心を』

持続可能な未来につなぐ

『三方よしとSDGs』

講師：三方よし研究所理事

滋賀県立大学環境科学部教授

高橋卓也 先生



ご紹介にあずかりました高橋と申します。現在、滋賀県立大学で教育研究をしておりまして高島市

にも調査のために何度かうかがっております。愛媛県出身で京都大学卒業後に民間企業に勤めた後、カナダに留学し2001年から彦根の滋賀県立大学に参りました。森林などの自然資源に関わる政策や計画、企業の環境経営が専門です。人々の良い生き方・幸福度（ウェルビーイング、Well-being）と自然環境との関係や森林に関するイノベーション（新機軸）の起こし方、どうすれば企業の環境経営がうまくいくのかといったことを研究しています。

(1) CSRを实践することの意義

CSRという言葉を皆さんの多くが聞いたことがあると思います。今はどの会社でも「企業の社会的責任」CSR（Corporate Social

Responsibility）が問われるようになり、近江商人がその源流であると最近、言われるようになっていきます。なぜ企業は環境を守らなければならぬのでしょうか。企業の任務は基本的に株主のためにお金を儲けることです。企業がなぜ環境という「余計」なことに力を入れるのかについて学者はわざわざ考えたりします。一つの理由として環境保全に力を注いだら、長期的には儲かるという考え方があります。また、環境関連の法律をぎりぎりを守ろうとすると、違反してしまうことがあるので、少し余裕をもった方が安全だという考え方もあります。さらに、企業は環境保全に努める責任があるという考え方もあります。それに反対意見を出す人もいます。ミルトン・フリードマンは1976年にノーベル賞をもらった経済学者で、新自由経済主義（ネオリベリズム）の創始者です。政府は小さい方がよく、企業は自由に活動した方がよい、規制は少ない方がいいという考え方です。

株式会社で働いている人は、正確にはほとんどが従業員で、法律的には会社の主役ではなく、会社は株主のもの。だから環境保全に力を入れるのは越権行為だという考え方があります。しかし、一般住民は企業には環境に配慮してもらいたいと思っていますし、他にも社会的公正性や

人権を守るということもほとんどの人が大切だと思っているでしょう。企業が活動を続けるためには、そのような配慮が大切であるというのがCSRの考え方です。このように企業の周りの利害関係にある人や団体をステークホルダーといいます。企業にはすべての利害関係者に対して説明責任があるという考え方がステークホルダー理論です。人権、消費者、高齢者や障害者に配慮しなくてはならないし、最近では人間だけではなく自然環境そのものもステークホルダーとする見方もあり、環境保護主義者に対しても責任を持つていくということです。

一つの例として、香港にデイズニールランドを作る時に起きた「ふかひれスープ問題」があります。開業を控えた2005年5月18日にデイズニールランドのホテルのメニューに「ふかひれスープ」が入るということが報道されました。すると地元環境保護団体から資源保護や闇取引の問題からふかひれを使うことへの批判がでました。最初、デイズニールランド側は中国の高級ホテルでは、それがメニューに入るのは慣習だと反論しましたが、環境保護団体は、フラインディング・ニモという海の生き物を主役とした映画を作っているのに、どうして海の生態系に配慮しないのかと言いました。香港の人

たちからは、「ふかひれスープ」がないと宴会の主催者の面子がつかれるのではといった意見も出ました。結果的には6月24日に、デイズニールランド側が「ふかひれスープ」を出さないことにしました。私は環境経営学の授業で、これを紹介していて、例えば「企業の立場に立ってみてください」というと、学生たちは企業の立場で一生懸命、企業側の反論を考えます。そのような様子を見てみると、その立場に置かれると、それに合わせた思考をする、柔軟ともいえませんが原則がない私たち日本人の傾向を感じます。

(2) CSRにつながる陽明学思想

陽明学では、「万物一体の仁」という非常に大事な考え方があります。万物とは主に生き物のことです。仁について中国の儒学者・程明道は、周りの生き物や人々の痛みを感じるのだと言っています。程明道は朱子学の流れの中で、非常に重要な一人ですが、朱子は理を重んじており、周りの人々の苦しみを感じたことだけを強調するのは危険だと考えていたようです。程明道の「万物一体の仁」という考え方を王陽明が知行合一に加えて、自分と他人自分と自然界の統一という思想に結びました。ステークホルダーというのは、万物一体の仁的な考え方とも